

上侍塚古墳(大田原市)

かみさむらいづか

右手前方が上侍塚古墳/左手前の高まりは上侍塚北古墳



上侍塚古墳/前方後方墳/下侍塚古墳に次ぐ4世紀末の築造/北西側から見たところ/右手奥が前方部、左手前が後円部



北西側から見た後円部/左手に標柱と説明板が立っている



江戸時代に水戸藩主徳川光圀の命で、那須国造碑の碑文内容と侍塚の被葬者との関連を探るために発掘調査が行われたという

国指定史跡

上侍塚古墳

上侍塚古墳は、那珂川右岸の段丘上に位置する前方後方墳で、那須地方に分布する6基の前方後方墳のなかでは最大規模を誇る。

本墳は、元禄5年(1692)、徳川光圀の命により小口村(那珂川町小口)の庄屋であった大金重貞らによつて、下侍塚古墳とともに発掘調査されている。北方1.5kmで発見された那須国造碑の碑文内容と侍塚の被葬者との関連を探るため行なわれたもので、日本における最初の学術調査として特筆される。

鏡(捩文鏡か)・鉄鏃・石釧・小札・鉄刀片・管玉土師器高坏などが出土したが、碑文との関連は明確にならず、遺物は絵図にとるなど調査結果を記録したうえ松板の箱に収め、もとの位置に埋め戻した。また調査後は、墳丘の崩落を防ぐために松を植えるなどを行っており、遺跡の保存に関して、見事な処置を実施している。

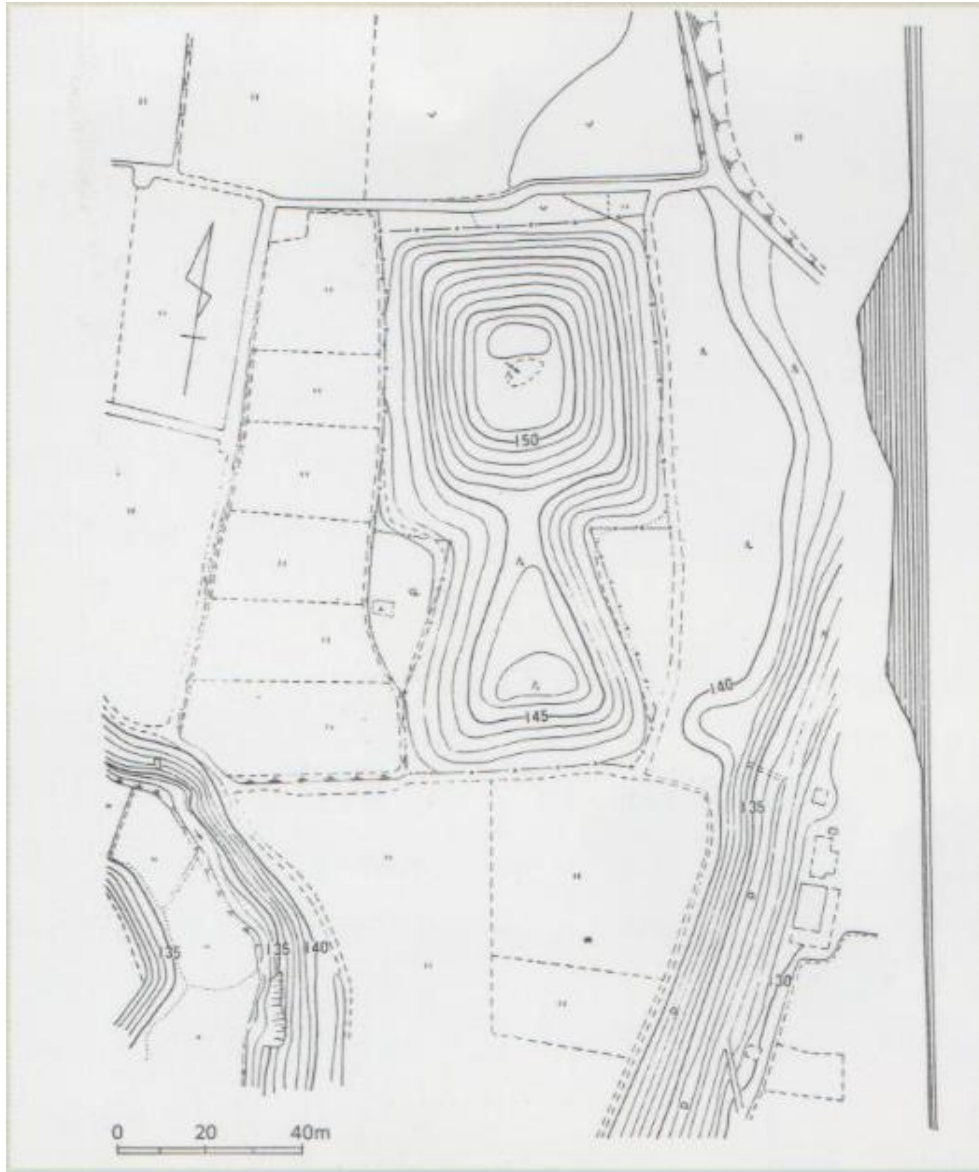
古墳の築造は、出土遺物や墳形の特徴などから4世紀末頃(古墳時代前期)と考えられている。

なお、本墳のすぐ北側には、全長約48.5mの前方後方墳、上侍塚北古墳がある。

(昭和26年6月9日 国指定)

墳形	前方後方墳	全長	約114.0m		
後方部	長さ 60.5m	幅	約58.0m	高さ	
前方部	長さ 53.5m	幅	約52.0m	高さ	





大田原市なす風土記の丘湯津上資料館パンフレットより

国宝 那須国造碑

昭和二十七年十二月二十二日 指定



総高 一四八センチメートル

石材 花崗岩

この碑は、西暦七〇〇年頃に、那須国造であった那須直章提の遺徳をたたえるため、その息子と思われる意斯麻呂らによって建立された碑です。文字の刻まれた碑の上に笠状の石を載せた特異な形をしていることから、この地域では「笠石さま」として親まれています。

碑には、八行に各十九字ずつの計百五十二字が刻まれており、その書体には中国の六朝時代の書風が感じられます。また、碑文冒頭には「永昌」という唐の則天武后の時代に使用された年号が用いられているなど、その当時に大陸や半島から渡来してきた人々の影響が色濃く残されています。

この碑の保存には、江戸時代の水戸藩主、徳川光圀も関わっています。長い間倒れ埋もれていたこの碑を、磐城の僧（円順）が発見し、小口村梅平（現那珂川町）の名主、大金重貞に話し、それが、徳川光圀へ伝えられました。そして、この碑が貴重なものであることがわかったことから、元禄四年（一六九一）碑堂を建て碑を安置しました。これが、現在の笠石神社となっています。

なお、多賀城碑（宮城県）・多胡碑（群馬県）とともに日本三古碑として知られています。

「史蹟 上侍塚古墳」とある



西側から見たところ/正面中央がくびれ部で左手は後方部、右手は前方部



右手の前方部を見たところ



左手の後方部を見たところ



ここはくびれ部



さて、これは後方部から前方部方向を見たところ



前方部から後方部方向を見たところ



その左手を見たところ



こちらは右手を見たところ



さて、正面の高まりは上侍塚古墳の北側にある上侍塚北古墳/前方後方墳/左手が後方部、右手が前方部/西側から見たところ



これは東側から見たところ/左手が前方部、右手が後方部/4世紀末の築造か



南東側から見たところ/左手前が前方部、右手奥が後方部



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/ootawara_ksamurai/

http://kofunnomori.web.fc2.com/tochigi/otawara/samu_kami.htm

<http://www42.atpages.jp/nukatanootama/page055.html>

<http://obito1.web.fc2.com/ootawara.html>

<http://jibusyouyuu.sekigaharablog.com/Entry/64/>

<http://www42.atpages.jp/nukatanootama/page122.html>

